

# 山間集落の人口推移について

— 演習林地元部落の事例 —

肥 後 芳 尚

## Studies on the Fluctuation of Population in the Mountain Villages in and around Takakuma Forest, Kagoshima University

Yoshinao HIGO

(Laboratory of Forest Policy)

### I まえがき

1950年代後半から長期にわたり高度の成長を続けてきた日本経済は、石油危機を契機に一転して「不況」の波に巻きこまれ、景気は停滞を続け、産業界には採用中止、希望退職、一時帰休制なども拡がり、景気回復が待たれている。日本経済の急成長は都市への急激な人口集中と都市の無秩序な膨張、環境破壊の進行をもたらし、一方農山村からの大量の人口流出は、集落の崩壊をひきおこすまでの過疎現象をもたらし、農山村に深刻な変化を与えた。これに対し諸対策が講じられてきたが、人口流出は止まず、この不況により一時停滞するにしても、景気回復と共に農山村からの人口流出は続き、依然として大きな農山村問題として残るであろう。

人口流出の評価、対策の前提として人口移動の実態を明らかにする必要がある、これまでもいろいろな調査がなされている。過疎地域の区域のとらえ方について、マクロ的な見方とミクロ的な見方がある。どのような人口減少の町村でも、その中心となる集落は社会施設がある程度整備されていて、人口は現状維持かあるいは増加し、過疎現象が見られるのは集落単位で、局地的であるのが一般的である。このようなミクロ的な集落の実態把握が必要であるのに、実際には統計的な把握が可能な町村の範囲を単位とすることが多い。町村を単位とした場合、過疎現象が生じている集落や中心集落も含まれることになり、市町村の平均数字で見ると結果、過疎現象の実状が現われないことになる。

また、地域人口の増減という動態的事象のとらえ方には、長期、短期の観察が必要であり、特定の山村地域の実態を調べる場合には、できるだけ長期の観察が必要であるが、統計的な把握の困難さのために、集落の調査は静態的かあるいは短期的な観察によって行なわれている場合が多い。

つぎに、地域人口が増減する原因は複雑であるが、人口論的要因とその背後にある自然的、社会的、経済的諸要因に大別できる。人口論的要因は増加要因の出生、転入と減少要因の死亡、転出であり、人口増減の実態を明らかにして、これらの要因を正確に把握する必要がある。以上の要因にさらに作用する諸要因、すなわちその地域社会の所得、生活水準や社会関係、住民の知的水準等についても明らかにする必要がある。

鹿児島大学農学部附属高隈演習林（以下高隈演習林と略称）では、労働力の供給を地元部落（演

習林内及び周辺の部落)から受けているが、山村からの人口流出で、労働力確保が経営上の大きな問題となっている。そこでわれわれは、長い間停滞していた山村が、この変動期にどのように移り変わって行くかを観察するため、これら地元部落の中で比較的演習林事業に出役者の多い演習林、高峠、大野、岳野の4部落を選び、昭和32年からの人口移動について調査してきた。調査法としては各部落の世帯別に台帳を作成し、毎年1月1日現在で住民各人についてその移動を記録してきたが、将来もこの調査を続け、得られた資料をもとにして人口の推移を明らかにし、人口論的要因の分析、さらには、社会経済的要因の検討分析を行う考えである。この報告は、昭和32年から昭和47年までの人口の推移と人口論的要因についての若干の考察結果の報告である。

この調査に終始ご指導をいただいた山添名誉教授、ならびに、調査に協力いただいた高隈演習林職員各位、部落の方々に感謝の意を表する。

## II 調査地域

高隈演習林は鹿児島県垂水市にあり、市の北東部に位置して高隈山系に属し、南北に細長く伸びた1団地をなしている。

垂水市は大隅半島の北西部に位置し、鹿児島湾を隔てて鹿児島市と相對しているが、東に高隈連山をひかえ、西は37kmの長い海岸線で、大隅半島の玄関に当る。総面積162.58km<sup>2</sup>、山林面積93.82km<sup>2</sup>(うち国有林76.75km<sup>2</sup>、高隈演習林30.80km<sup>2</sup>)、耕地面積28.60km<sup>2</sup>のうち81%が畑で、園芸の盛んな農村である。昭和33年隣接の牛根、新城村を合併して市制をしいたが、鹿児島市から海上18.5km隔たり、大消費地、工場地帯より遠いので農業以外に就業機会も少なく、人口流出の多い市で、過疎地域の指定を受けている。(第1図)

高隈演習林の地元部落である演習林、高峠、大野の3部落は、高隈連山の北西部にひろがる大野原台地(海拔高450~500m)に位置して、相隣接している。垂水港から県道が通じているが、市の中心部から距離18kmで、昭和29年バスが開通し、1日2往復していた。近年過疎化が進むにつれて利用者が少なくなり、現在1日1往復運行しているがその運行も危ぶまれている。

更に一つの地元部落である岳野はピシャゴ岳の東北、岳野にひらけた部落で海拔高450m、地形はゆるやかな傾斜をなし、台地状である。海岸よりの距離11km、最寄りのバス停留所まで3kmの道程で交通不便である。小学校は隣接の輝北町岳野部落にあり、20分位の通学距離にあるが、中学生は海岸まで7kmの山道を徒歩通学している実状である。

### 1. 演習林部落(以下林内部落と略称)

高隈演習林は明治42年国有林より移管され、移管当時林内には海岸の部落から数戸の入植者があり、また製炭者も数名入山していたが、僻地で部落から遠く、造林、伐採、林道工事等に必要な労働力の調達が、創設当初一番の問題であった。開墾適地の貸付等によって極力林内入植をすすめ、これによって必要労働力の確保をはかってきたので、移住者も増加し、貸付を受けた土地を開墾、耕作しながら製炭に従事、あるいは演習林の作業に出役して生計をたてていた。

昭和10年の林内戸数は50戸であったが、部落民は演習林職員、製炭業者、演習林事業出役者、林内の錫鉱山関係者の部落であった。しかしながら、鉱山事業の不振、製炭原木量の減少、演習林事業の縮小によって部落から離れて行く者が多くなった。部落の世帯構成の推移は第1表のとおりである。

昭和32年、21戸あった世帯が昭和47年末で8戸となり、このうち4戸は48年4月垂水市中心部へ転出し、部落としての機能は完全に失われてしまった。この部落は演習林を中心とする特殊な関係



農業を営んできた。原野を開墾した畑地のため地力も低く、農作物の収穫量少く、現金収入を得るため演習林の事業にも出役し、出稼ぎに出る者も多かった。

垂水市当局の過疎対策の企業誘致により、商社、飼料メーカー等が提携してつくった畜産企業ジャパン・ファームが当市に進出することになり、高峠開拓地を含む大野原に設立されることになったので、昭和47年10月に土地を引渡し、高峠部落は消滅した。部落民の多くはジャパン・ファームの従業員に採用され、転居先の市の中心部から通勤している。

### 3. 大野部落

大野部落は、大正3年桜島大爆発による罹災者が国有林の払下げを受け、移住してできた部落であるが、移住者は東桜島村より22戸、垂水町より61戸、計83戸であった。大野部落には小、中学校もあり、大野地区の中心部落であるが、郷里への引揚者もあって戸数は漸減した。戦後大野地区に垂桜、駒ヶ丘、高峠の3開拓地が拓かれたので、二、三男でこれ等の開拓地へ入植する者が多く、分家による戸数の増加はほとんど見られない。部落の世帯の推移は第2表のとおりである。

第2表 大野部落の世帯構成の推移 単位：戸

職 業 別	32年	35年	40年	45年	48年
農 家	48	48	43	39	39
非 農 家					
小、中学校職員	7	12	12	11	8
無 職	5	4	2	2	1
そ の 他	1	0	0	0	0
計	61	64	57	52	48

大野原は開墾当時肥沃で、茶の栽培、製茶、蔬菜園芸等によって現金収入を計ってきたが、降雨量が多く、表土の流亡によって地力は年々減退している。畑仕事以外に国有林、演習林の事業に出役し、製炭に従事する者も多かった。しかし、昭和35年頃からの製炭業の不振により製炭者は林業賃労働者、牧場夫、あるいは道路工事等の日雇労働者へ転業し、また大都市へ出稼ぎに出かけていった。

### 4. 岳野部落

岳野地区には明治20年頃、海岸部落から数世帯入植していたといわれる。大正3年桜島爆発の頃戸数15戸であったが、爆発の被害で他へ移住した者もあり、戦後開拓によって新しく4戸が海岸部落から入植して、昭和32年の世帯数は51戸となっている。世帯の推移は第3表のとおりである。

第3表 岳野部落の世帯構成の推移 単位：戸

職 業 別	32年	35年	40年	45年	48年
農 家	46	47	47	36	31
非 農 家					
演習林職員	1	1	2	2	2
無 職	4	4	4	2	2
そ の 他	0	0	0	0	1
計	51	52	53	40	36

部落民は農業のかたわら、演習林、国有林の造林事業に出役し、あるいは演習林、国有林から原木の払下げを受けて製炭に従事してきた。戦時中、戦後ほとんど停止状態にあった演習林の造林事業、製炭原木の払下げも昭和30年頃から再開され、製炭、造林作業に就業の機会も多くなり、比較的都会へ転出者が少なかった。しかしながら、いったん製炭事業が不振に陥ると、出稼ぎ者、挙家離村が相ついだ。

### III 人口の推移

#### 1. 垂水市の人口推移

調査対象の4部落の人口の推移を見る前に、鹿児島県、垂水市、垂水市内の山間部落の人口変動について見てみよう。

垂水市の人口動態を鹿児島県全体のそれと比較すると、市の人口、世帯数が県全体の中で占める割合は、昭和35年1.66%、昭和45年1.50%で年々減少している。(第4表)

鹿児島県は全国一の人口流出県であるといわれているが<sup>1)</sup>、垂水市の人口減少率は更に大きく、10%以上となっている。減少の原因を自然増と社会増についてみると、出生児の減少が大きく影響し、昭和45年には出生児よりも死亡者の数が増えて、自然増はマイナスとなっている。

社会動態についてみると、鹿児島県の場合、県外への転出入は年々多くなり、人口動態に大きく影響している。垂水市は県内他市町村への転出入はほぼ同数であるが、県外への転出入は年々増加し、転出は転入の2倍近い数を示している。転出入者が多くなっていることは、農業以外に見るべき産業のない当市としては、大都会への出稼ぎ者、就職者等の出入りの多いことを示していると思われる。

つぎに、市内の部落数は143を数えるが、この中に山間部落と呼ばれる13の部落がある。調査対象の4部落はこの中に含まれるが、これら部落の世帯、人口の動態を垂水市全体のそれと比較してみると、第5表のとおりである。世帯数は人口に較べて減少率が小さく、比較的变化が少ないが、人口では減少が大きく、特に山間部落では10年間に40%も減少しているのが注目される。一世帯当りの人員は年々減少しているが、垂水市の平均値と山間部落の間にそれほどの差は見られない。

#### 2. 4部落の人口推移

##### (1)概況

4部落における人口の状況は第6表、第7表のとおりで(第2図)、これを期間別に見ると、昭和30年代前半期の動きは少ないが、高峠部落の減少は6戸の世帯の転出によるものである。昭和30年代後半期には18%の減少が見られるが、垂水市平均値の約1.8倍の減少率で、林内部落の減少が大きく、50%近い減少を示している。

昭和40年代前半期においては28%の減少で、各部落とも似通った減少を示しているが、岳野部落の急激な減少が目立っている。昭和45年から昭和48年にかけての3年間の減少率は22%で、高峠部落の減少率100%、林内部落33%減が目立つ。大野部落は前の期間の減少率35%に較べて反対に2%の増加を示し、今後の動向が注目される。

昭和32年から昭和48年にかけての16年間の減少は第7表のとおりで、半数以下に減り、ジャパン・ファームの進出で消滅した高峠部落を別とすれば、林内部落73人(△78%)の減少が最も多く、崩壊寸前といった状態で、大野、岳野の二部落が存続することになる。

第4表 鹿児島県、垂水市の人口動態

単位：%

地域	世帯数		人口			自然動態			社会動態													
	戸 世帯数	35年対比	人		5年間の 増減率	出生児	死亡者		自然増	転出		転入		社会増								
			人口	35年対比			全対する 人口に比	35年対比		全対する 人口に比	全対する 人口に比	35年対比	全対する 人口に比	全対する 人口に比	35年対比	全対する 人口に比						
35	470,363	100	1,963,104	100	△4.0	100	1.9	100	0.8	100	1.1	100	3.2	100	4.3	100	3.2	100	2.2	100	△2.1	100
40	489,492	104	1,853,541	94	△5.6	76	1.6	97	0.9	97	0.7	60	3.4	100	4.7	104	3.4	100	3.1	134	△1.7	74
45	511,820	108	1,729,150	88	△6.7	63	1.4	97	0.9	97	0.5	37	3.7	103	5.8	118	3.7	103	3.6	148	△2.2	89
35	7,814	100	32,721	100	△10.8	100	2.3	100	1.1	100	1.2	100	2.1	100	6.0	100	1.8	100	2.5	100	△3.5	100
40	7,686	98	29,175	89	△10.8	49	1.3	83	1.0	83	0.2	18	2.4	101	5.2	78	2.4	118	3.3	118	△1.9	49
45	7,718	99	25,952	79	△11.0	36	1.0	81	1.1	81	0.1	△5	2.9	110	6.4	85	2.8	122	3.7	117	△2.7	63

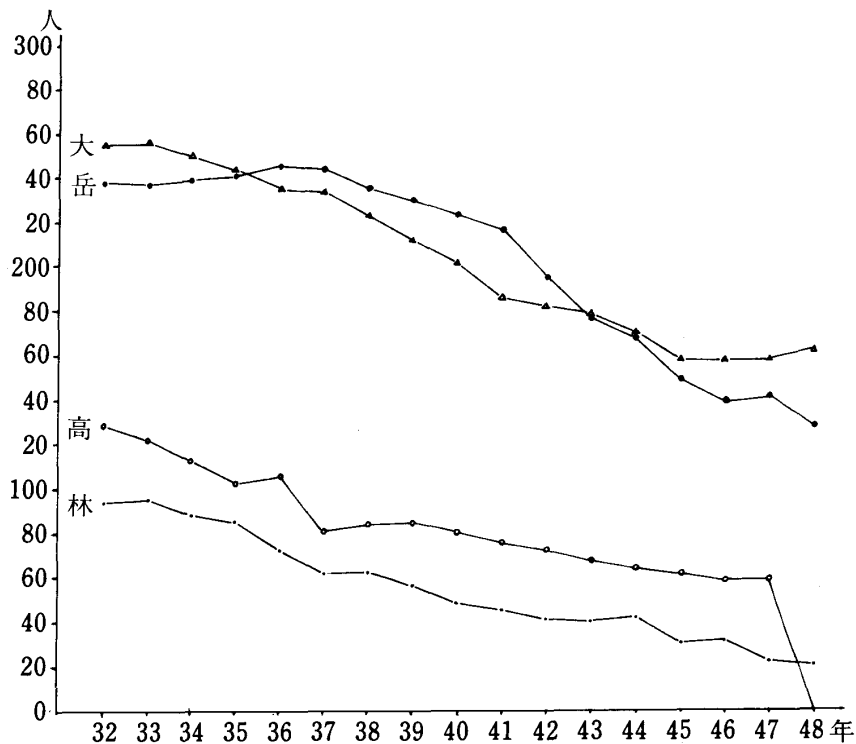
資料：鹿児島県統計年鑑，統計鹿児島（35年1月～12月号）鹿児島県統計協会

第5表 垂水市，山間部落の世帯，人口の変化

年		世帯			人口			一世帯当 人員	男女比
		戸 実数	% 35年対比	% 垂水市と の比	人 実数	% 35年対比	% 垂水市と の比		
35	垂水市	7,814	100	100	32,721	100	100	4.2	男 女 1:1.1
	山間部落	416	100	5.3	1,841	100	5.6	4.4	1:1.0
	4部落	161	100	2.0	645	100	2.0	4.0	1:1.0
40	垂水市	7,700	98		29,175	89		3.8	1:1.5
	山間部落	374	89	4.9	1,470	79	5.0	3.9	1:1.1
	4部落	146	90	1.9	536	83	1.8	3.7	1:1.1
45	垂水市	7,718	98		25,952	79		3.4	1:1.2
	山間部落	347	80	4.5	1,154	62	4.4	3.3	1:1.1
	4部落	125	77	1.6	394	61	1.5	3.2	1:1.2
47	垂水市	7,821	100		26,745	81		3.4	1:1.1
	山間部落	338	81	4.3	1,170	63	4.3	3.5	1:1.1
	4部落	122	75	1.5	416	64	1.5	3.4	1:1.0

資料：垂水市役所統計資料より作成

(注) 市役所資料によったので4部落の世帯数，人口は調査した数字と若干相違する。



第2図 人口の推移

第 6 表 人口の推移 単位：人，%

部 落 年	林内		高 峠		大 野		岳 野		計	
	実数	35年 対比	実数	35年 対比	実数	35年 対比	実数	35年 対比	実数	35年 対比
32	93	109	127	125	255	105	238	98	713	106
33	95	111	121	119	256	105	237	98	709	106
34	88	104	112	110	250	102	239	99	689	102
35	85	100	102	100	244	100	242	100	673	100
36	72	85	106	104	235	96	246	102	659	98
37	61	72	80	78	234	96	243	100	618	92
38	61	72	83	81	226	93	235	97	605	90
39	56	66	84	82	212	87	230	95	582	86
40	48	56	80	78	201	83	224	92	553	82
41	45	53	76	75	184	76	217	89	522	78
42	41	48	72	71	183	75	196	80	492	73
43	40	47	67	66	179	73	177	73	463	69
44	41	48	64	63	170	70	168	69	443	66
45	30	36	61	60	158	65	151	62	400	59
46	31	36	58	57	158	65	140	57	387	57
47	22	26	59	58	158	65	141	58	380	56
48	20	24	0	0	161	66	130	54	311	46

第 8 表 世帯数の推移 単位：人，%

部 落 年	林内		高 峠		大 野		岳 野		計	
	実数	35年 対比	実数	35年 対比	実数	35年 対比	実数	35年 対比	実数	35年 対比
32	21	91	28	127	61	95	51	98	161	100
33	24	104	27	123	64	100	51	98	166	103
34	23	100	26	118	63	98	52	100	164	102
35	23	100	22	100	64	100	52	100	161	100
36	21	91	21	95	60	94	53	102	155	96
37	20	87	17	77	61	95	55	106	153	95
38	19	83	16	73	59	92	54	104	148	92
39	18	78	16	73	57	89	53	102	144	89
40	15	65	16	73	57	89	53	102	141	88
41	15	65	16	73	56	86	50	96	137	85
42	15	65	16	73	54	84	48	92	133	83
43	16	70	16	73	55	86	45	87	132	82
44	16	70	16	73	54	84	43	85	129	81
45	13	57	16	73	52	81	40	77	121	75
46	13	57	16	73	51	80	38	73	118	73
47	10	43	16	73	48	75	38	73	112	70
48	8	35	0	0	48	75	36	69	92	57

第 7 表 人口増減率 単位：%

	林内	高 峠	大 野	岳 野	計
40年 /35年	△ 44	△ 22	△ 17	△ 8	△ 18
45年 /40年	△ 38	△ 24	△ 22	△ 33	△ 28
45年 /35年	△ 65	△ 40	△ 35	△ 38	△ 41
48年 /45年	△ 33	△ 100	2	△ 14	△ 22
48年 /32年	△ 78	△ 100	△ 37	△ 46	△ 56

第 9 表 世帯増減率 単位：%

	林内	高 峠	大 野	岳 野	計
40年 /35年	△ 35	△ 27	△ 11	2	△ 12
45年 /40年	△ 13	0	△ 9	△ 25	△ 14
45年 /35年	△ 43	△ 27	△ 19	△ 23	△ 25
48年 /45年	△ 38	△ 100	△ 8	△ 10	△ 24
48年 /32年	△ 62	△ 100	△ 21	△ 29	△ 43

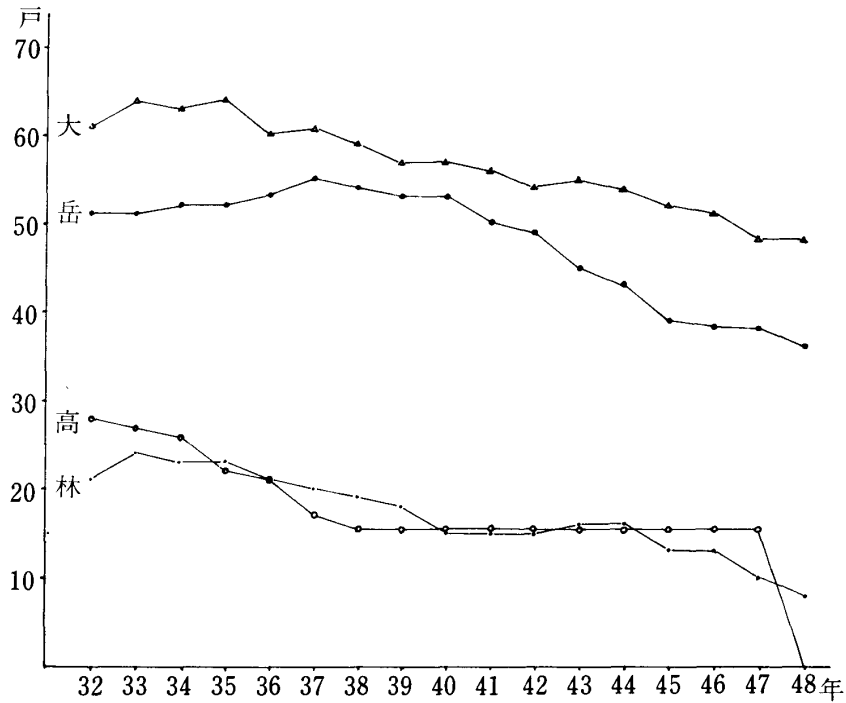
## (2)世帯数の推移

人口の減少には、単独の人口の減少と世帯員としての人口の減少があるが、その地域社会への影響を考えると、世帯の減少は重要な意味を持っている。

世帯数の推移は第 8 表、第 9 表のとおりで(第 3 図)、昭和 32 年から昭和 48 年の 16 年間に 69 戸 (△ 43%) 減少している。部落別にみると、人口の場合と同様それぞれ異った動きを示しているが、減



少率は人口の減少ほど激しくなく、，一般的傾向を示していると思われる。<sup>2)</sup>



第3図 世帯数の推移

第10表 世帯数の推移の内訳

単位：戸

部 落 年	林 内		高		峠		大 野		岳 野		計	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
32年中	3	0	0	1	4	1	0	0	7	2	5	
33	0	1	1	2	1	2	1	0	3	5	-2	
34	2	2	0	4	2	1	0	0	4	7	-3	
35	0	2	0	1	1	5	1	0	2	8	-6	
36	1	2	0	4	6	5	2	0	9	11	-2	
37	0	1	0	1	3	5	0	1	3	8	-5	
38	2	3	0	0	4	6	0	1	6	10	-4	
39	1	4	0	0	5	5	0	0	6	9	-3	
40	0	0	0	0	5	6	0	3	5	9	-4	
41	1	1	0	0	3	5	0	2	4	8	-4	
42	2	1	0	0	6	5	0	3	8	9	-1	
43	1	1	0	0	4	5	1	2	6	8	-2	
44	0	3	0	0	4	6	1	5	5	14	-9	
45	1	1	0	0	3	4	1	3	5	8	-3	
46	0	3	0	0	1	4	1	1	2	8	-6	
47	0	2	0	16	6	6	0	2	6	26	-20	
計	14	27	1	29	58	71	8	23	81	150	-69	

世帯数の減少は、転出>転入の結果として現われていて、世帯数増減の内訳を示したのが第10表である。林内、大野両部落の転入世帯が多くなっているが、これは部落構成に関係がある。先述のごとく、林内部落には演習林職員の世帯が含まれ、大野部落には小、中学校職員の住宅があり、僻地であるため勤続年数が短かく、2～3年で転勤しているため、世帯の転出入が多い。最近では子弟の教育等の関係で、市内の市街地に居住し、単車、自動車通勤する職員が多くなっている。大野部落の転入、転出世帯の80%が小、中学校職員である。

高峠部落では、昭和37年まで離脱者が続いているが、それ以後は昭和47年の部落の消滅まで一応安定していた。岳野部落では昭和40年から転出世帯が多くなっているが、23戸の転出世帯のうち18戸が挙家離村で、製炭事業不振の影響をはっきり示している。

世帯の減少が、人口の減少ほど激しくないということは、世帯規模の縮小化を意味しているが、世帯の推移を世帯員数の規模別世帯数によってみると、第11表のとおりである。(附表第1表)

第11表 世帯員数規模別世帯数 4部落計

単位：戸、%

世帯員数	32年	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
人																	
1	13	15	13	17	14	18	17	14	15	18	21	28	25	28	22	20	15
2	19	23	21	20	22	26	21	27	25	27	24	19	24	25	31	27	29
3	25	25	32	23	21	20	22	21	23	15	16	24	22	17	18	16	10
4	29	32	27	34	30	20	24	20	18	23	23	15	15	15	16	16	12
5	26	25	30	25	26	31	26	21	30	24	26	25	26	17	15	15	7
6	21	17	20	21	20	22	22	28	19	19	13	10	8	11	6	9	10
7	16	19	13	12	14	9	9	6	5	8	8	9	6	6	7	7	9
8	8	7	5	6	6	5	4	7	6	3	2	2	3	2	3	2	
9	1	2	2	2		2	3										
10	1			1	1												
11	1	1	1														
12	1				1												
計	161	166	164	161	155	153	148	144	141	137	133	132	129	121	118	112	92
人員 人	713	709	689	673	659	618	605	582	553	523	489	462	443	398	386	380	309
1戸当 平均員数	4.4	4.3	4.2	4.2	4.3	4.0	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	3.4
32年 対比%	100	103	102	100	96	95	92	89	88	85	83	82	80	75	73	70	57

世帯員数の多い世帯は年々減少しているが、昭和40年までは構成比はあまり変わっていない。昭和40年頃から人口の減少がすすみ、世帯員数規模も年々小さくなり、1人世帯、2人世帯が増えている。昭和45年には3人以下の小人数世帯が57%を占めるようになり、世帯の縮小化が進んでいることを示している。

第12表 世帯員の平均年齢

大野、岳野両部落では近年1～2人世帯が増加しているが、これら世帯の世帯員の年齢をみると老令化が進んでおり、特に大野部落では1～2人世帯の数が50%に及んでいることは注目すべきである。第12表は世帯員の平均年齢の推移をすものであるが、これによっても老令化の傾向が伺われる。

部 落	32年	35年	40年	45年
	オ	オ	オ	オ
林 内	26	30	44	44
高 峠	25	26	32	36
大 野	31	33	36	40
岳 野	26	28	31	36

第13表 年齢階層別人口構成

単位：人、%

年	年齢階	林			内			高			峠			大			野			岳			野			計			
		男	女	計	構成比	対35年比	男	女	計	構成比	対35年比	男	女	計	構成比	対35年比	男	女	計	構成比	対35年比	男	女	計	構成比	対35年比	男	女	計
32	A 0~14才	22	16	38	41	119	28	25	53	42	115	45	50	95	37	110	48	49	97	41	96	143	140	283	40	107	143	140	283
	B 15~64	23	29	52	56	104	37	35	72	57	131	67	79	146	57	104	70	66	136	57	103	197	209	406	57	108	197	209	406
	C 65才以上	2	1	3	3	100	0	2	2	1	200	8	6	14	6	78	3	2	5	2	55	13	11	24	3	77	13	11	24
	計	47	46	93	100	109	65	62	127	100	125	120	135	255	100	105	121	117	238	100	98	353	360	713	100	106	353	360	713
	A/B	95.6	55.1	73.1			75.7	71.4	73.6			67.2	63.3	65.1			68.5	74.2	71.3			72.6	67.0	69.7			72.6	67.0	69.7
C/B	8.7	3.4	5.8			75.7	5.7	2.8			11.9	7.6	9.6			4.2	3.0	3.7			6.6	5.2	5.9			6.6	5.2	5.9	
A+C/B	104.3	58.6	78.8			75.7	77.1	76.4			79.1	70.9	74.6			72.9	77.2	75.0			79.2	77.2	75.6			79.2	77.2	75.6	
35	0~14	20	12	32	38	100	26	20	46	45	100	38	48	86	35	100	49	52	101	42	100	133	132	265	39	100	133	132	265
	15~64	23	27	50	59	100	32	23	55	54	100	67	73	140	57	100	73	59	132	55	100	195	182	377	56	100	195	182	377
	65才以上	1	2	3	3	100	0	1	1	1	100	9	9	18	8	100	4	5	9	3	100	14	17	31	5	100	14	17	31
	計	44	41	85	100	100	58	44	102	100	100	114	130	244	100	100	126	116	242	100	100	342	331	673	100	100	342	331	673
	A/B	87.0	44.4	64.0			81.2	86.9	83.6			56.7	65.8	61.4			67.1	88.1	76.5			68.2	72.5	70.3			68.2	72.5	70.3
C/B	4.3	7.4	6.0			81.2	4.3	1.8			13.4	12.3	12.9			5.4	8.5	6.8			7.1	9.3	8.2			7.1	9.3	8.2	
A+C/B	91.3	51.8	70.0			81.2	91.2	85.4			70.1	78.1	74.3			72.5	96.6	83.3			75.3	81.8	78.5			75.3	81.8	78.5	
40	0~14	10	9	19	40	59	17	14	31	39	67	32	36	68	34	79	51	53	104	47	103	110	112	222	40	84	110	112	222
	15~64	12	13	25	52	50	24	20	44	55	80	51	62	113	56	81	45	54	99	44	75	132	149	281	51	75	132	149	281
	65才以上	0	4	4	8	133	3	2	5	6	500	11	10	21	10	117	7	13	20	9	222	21	29	50	9	161	21	29	50
	計	22	26	48	100	56	44	36	80	100	78	94	108	202	100	83	103	120	223	100	92	263	290	553	100	82	263	290	553
	A/B	83.3	69.2	76.0			70.8	70.0	70.4			62.7	58.1	60.2			113.0	98.0	105.5			83.0	75.0	79.0			83.0	75.0	79.0
C/B	30.8	16.0	11.4			12.5	10.0	11.4			21.5	16.1	18.6			15.5	24.0	20.0			16.0	19.0	17.7			16.0	19.0	17.7	
A+C/B	83.3	100.0	92.0			83.3	80.0	81.8			84.2	74.2	78.8			128.5	122.0	125.0			99.0	94.0	96.7			99.0	94.0	96.7	
45	0~14	5	4	9	30	28	10	11	21	34	46	21	27	48	30	56	30	30	60	40	59	66	72	138	35	52	66	72	138
	15~64	6	11	17	57	34	13	19	32	53	58	37	51	88	55	63	31	41	72	48	55	87	122	209	53	55	87	122	209
	65才以上	0	4	4	13	133	5	3	8	13	800	11	11	22	15	122	5	12	17	12	189	21	30	51	12	165	21	30	51
	計	11	19	30	100	35	28	33	61	100	60	69	89	158	100	65	66	83	149	100	62	174	224	398	100	59	174	224	398
	A/B	83.3	36.3	52.9			76.9	57.9	65.6			56.7	52.9	54.5			96.8	73.2	83.3			75.8	59.0	66.0			75.8	59.0	66.0
C/B	36.4	23.5	16.0			38.5	15.8	25.0			29.7	21.5	25.0			16.1	29.3	23.6			24.1	24.6	24.4			24.1	24.6	24.4	
A+C/B	83.3	72.7	76.4			115.4	73.7	90.6			86.4	74.4	79.5			112.9	102.5	106.9			100.0	83.6	90.4			100.0	83.6	90.4	
48	0~14	3	2	5	25	16	3	2	5	25	16	20	26	46	29	53	31	23	54	42	53	54	51	105	34	40	54	51	105
	15~64	4	6	10	50	20	4	6	10	50	20	42	49	91	57	65	26	32	58	45	44	72	87	159	51	42	72	87	159
	65才以上	1	4	5	25	166	13	11	24	14	133	13	11	24	14	133	4	12	16	13	178	18	27	45	15	145	18	27	45
	計	8	12	20	100	23	8	12	20	100	23	75	86	161	100	66	61	67	128	100	53	144	165	309	100	46	144	165	309
	A/B	75.0	33.3	50.0			47.6	53.1	50.5			47.6	53.1	50.5			119.2	71.9	93.1			75.0	58.6	66.0			75.0	58.6	66.0
C/B	25.0	66.6	50.0			31.0	22.4	26.3			31.0	22.4	26.3			15.4	37.5	27.6			25.0	31.0	28.3			25.0	31.0	28.3	
A+C/B	100.0	100.0	100.0			78.6	75.5	76.9			78.6	75.5	76.9			134.6	109.0	120.7			100.0	89.6	94.3			100.0	89.6	94.3	

(注) 0~14才 幼年人口、15~64才 生産年齢人口、65才以上 老年人口  
 A/B 幼年人口指数(生産年齢人口に対する幼年人口の割合)  
 C/B 老年人口指数(生産年齢人口に対する老年人口の割合)  
 A+C/B 従属人口指数(生産年齢人口に対する幼年人口+老年人口の割合)

## (3)年令別人口の推移

人口の動向を年令階層別にみると第13表、第14表のとおりである。(附表第2表)幼年人口(0~14才)、生産年令人口(15~64才)ともに、昭和35年から昭和45年の10年間に45~50%と大巾に減少しているが、老令人口は逆に65%増加している。全体に対する割合は幼年人口は4%減、生産年令人口は3%減であり変化してないが、老令人口は5%から12%へ上昇している。

第14表 年齢階層別人口増減率

単位：%

部落	40年 / 35年				45年 / 40年				45年 / 30年				48年 / 32年			
	0~14	15~64	65以上	計	0~14	15~64	65以上	計	0~14	15~64	65以上	計	0~14	15~64	65以上	計
林内	△40.6	△50.0	33.3	△43.5	△52.6	△32.0	0	△37.5	△71.8	△66.0	33.3	△64.7	△87.8	△80.8	66.7	△56.4
高峠	△32.6	△20.0	400.0	△21.6	△32.2	△27.3	300.0	△23.8	△54.3	△41.8	700.0	△40.2				
大野	△20.9	△19.3	16.7	△17.6	△29.4	△22.1	4.8	△21.4	△44.2	△37.1	22.2	△35.2	△51.6	△37.7	71.4	△36.9
岳野	2.9	△25.0	122.0	△7.4	△42.3	△27.3	△15.0	△32.6	△40.5	△45.5	88.9	△37.6	△44.3	△57.4	220.0	△45.4
計	△16.2	△25.5	61.3	△17.8	△37.8	△25.6	2.0	△27.7	△47.9	△44.6	64.5	△40.6	△62.9	△60.8	84.0	△56.4

昭和45年における年令別人口の全人口に対するシェアを、全国、過疎地域と比較するとつぎのとおりである。

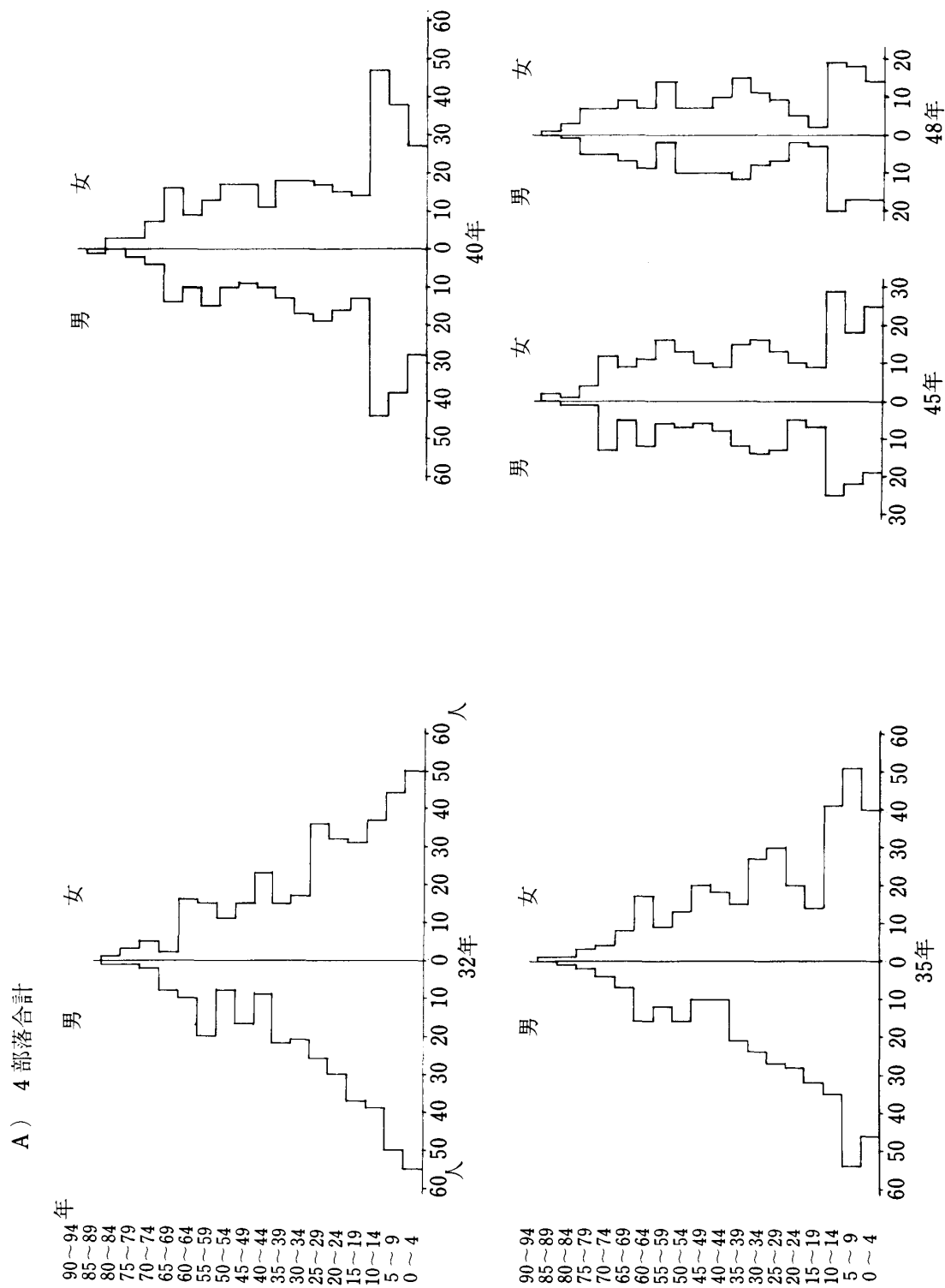
地 域	幼年人口指数	老年人口指数	従属人口指数
全 国	34.7%	10.3%	45.0%
過疎地域	41.9%	16.9%	58.8%
4 部 落	66.0%	24.4%	90.4%

幼年人口の大巾の減少にもかかわらず、なお全人口に対する割合が高く、過疎地域に較べても幼年人口指数、老令人口指数ともに著しく高くなっているのは、相対的に生産年令人口の少ないことを物語っている。

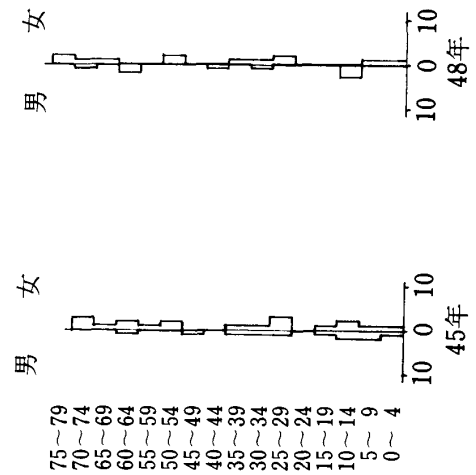
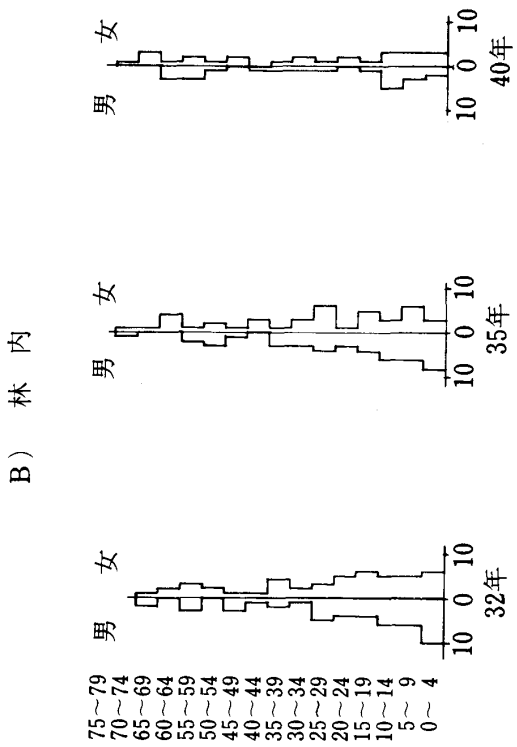
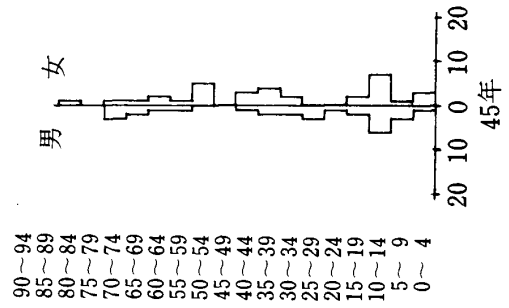
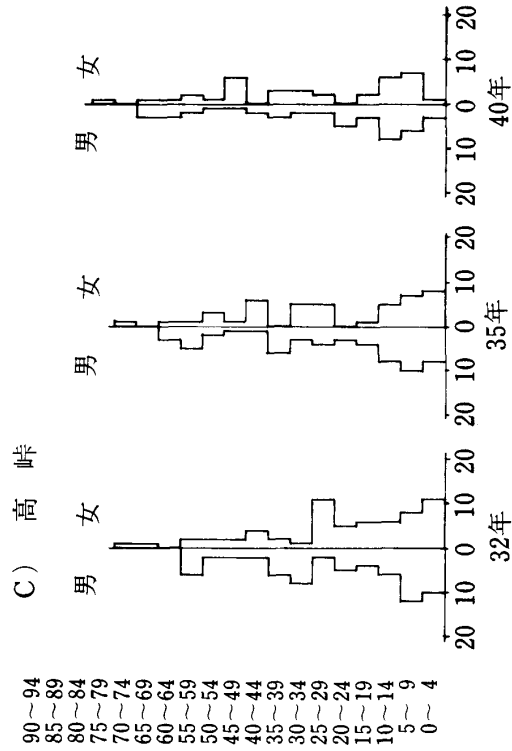
年令別人口の動向をより詳細に検討するために、人口ピラミッド<sup>3)</sup>によって年令階層別の人口構成をみると、第4図、第5図のとおりである。

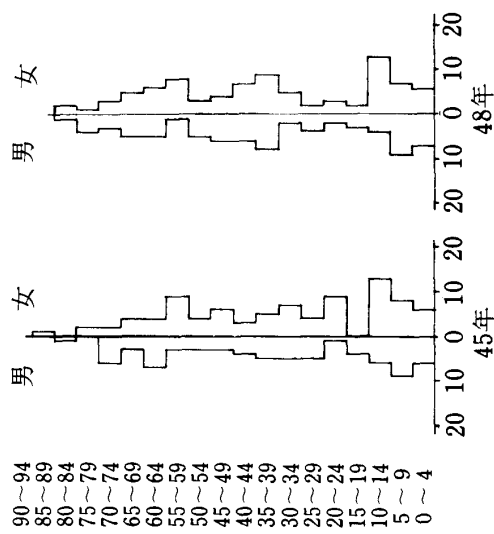
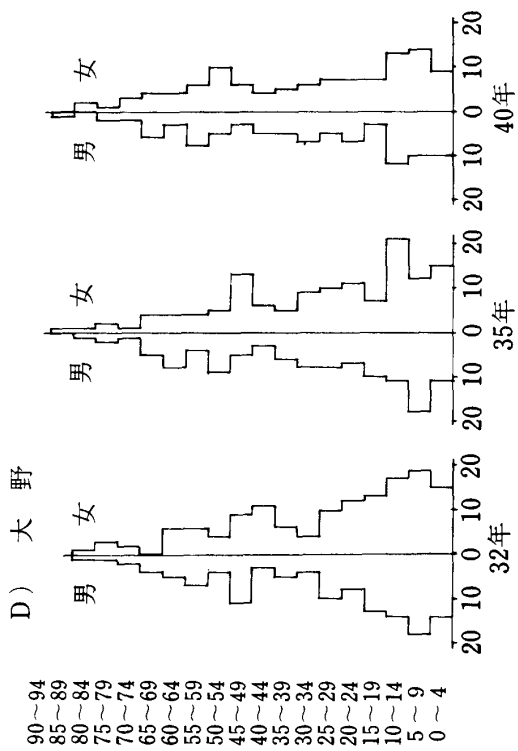
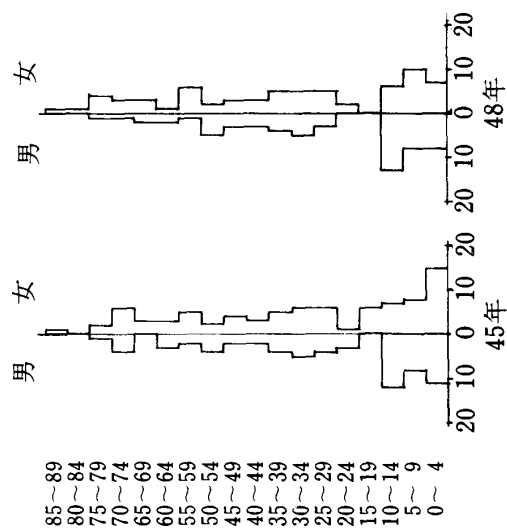
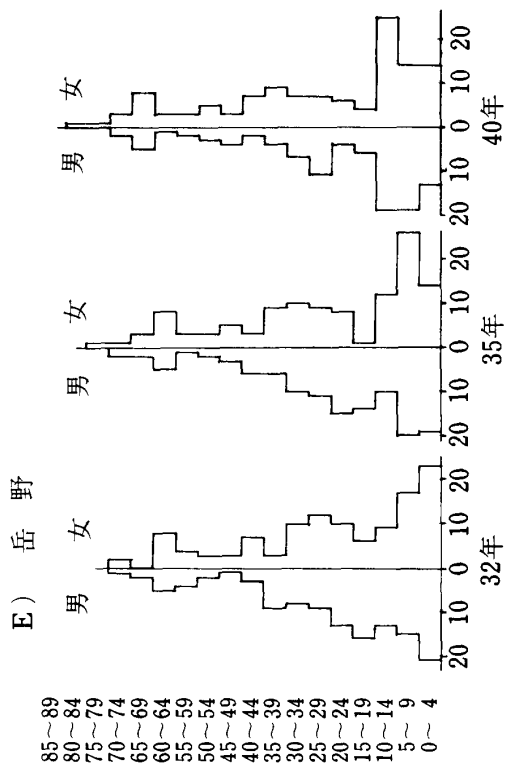
昭和32年においては、裾の開いた発展型を形成しているが、35年には出生児の減少と、15~24才の女性の若手労働力の流出が見られる。昭和40年においては、10~14才の階層を除いて40才以下のどの年令階層も大巾に減少しているが、なお幼年人口は多く、老令人口も多い農村型を呈している。若年層の大巾の減少が目立っているが、昭和45年においても40才以下の減少はさらに進み、24才以下の若年層、幼令人口が急減している。

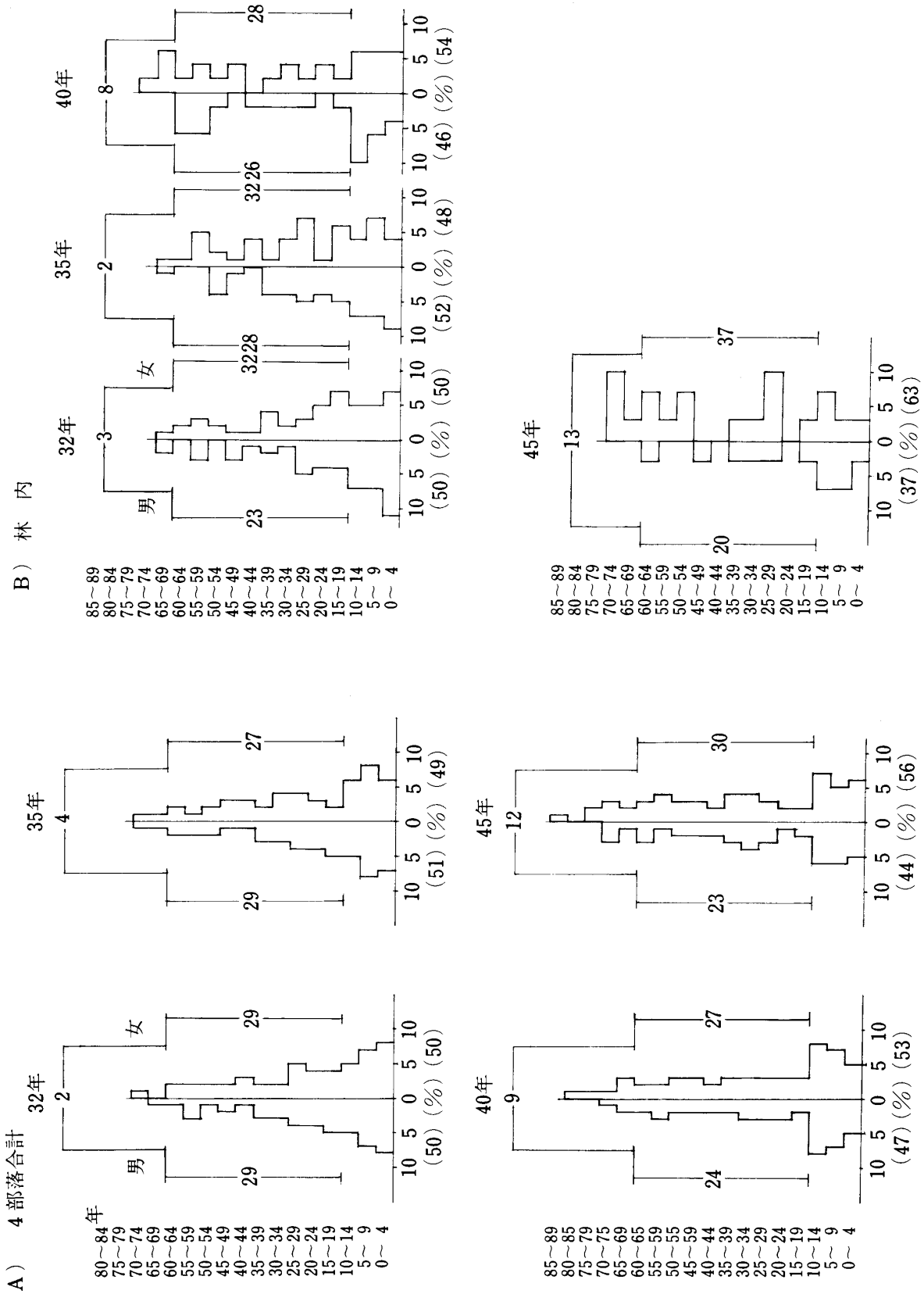
つぎに、人口ピラミッド(シェア)を全国、鹿児島県のそれと比較すると<sup>4)</sup>(第5図、第15表)、全国、鹿児島県に較べて低かった女性のシェアが急に増加し、同様に老令人口も増加して、そのシェアは全国、鹿児島県より高く老令化が進んでいる。若手労働力は大巾に減少しており、新規学卒者の市外流出をはっきり示している。また、0~9才の子供の減少が大きいとは言えるものの、そのシェアからみると相対的に多い。主要出産年令人口のシェアは、全国の場合高くなっているのに逆に低下している。



第4図 年齢階層別人口構成



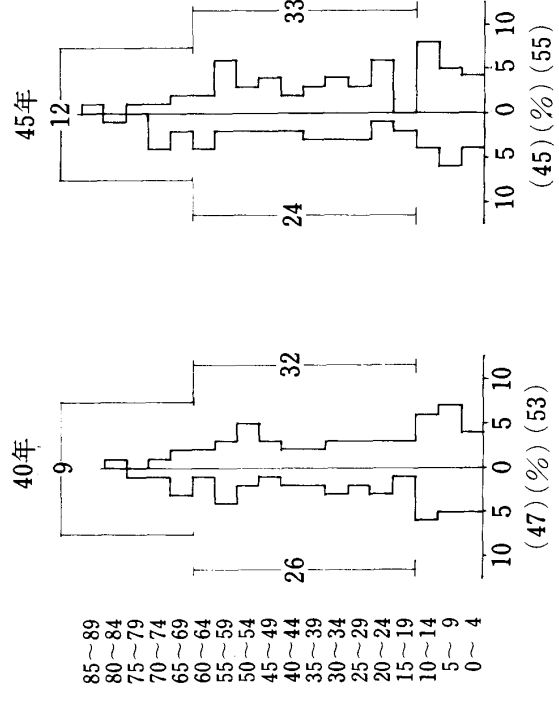
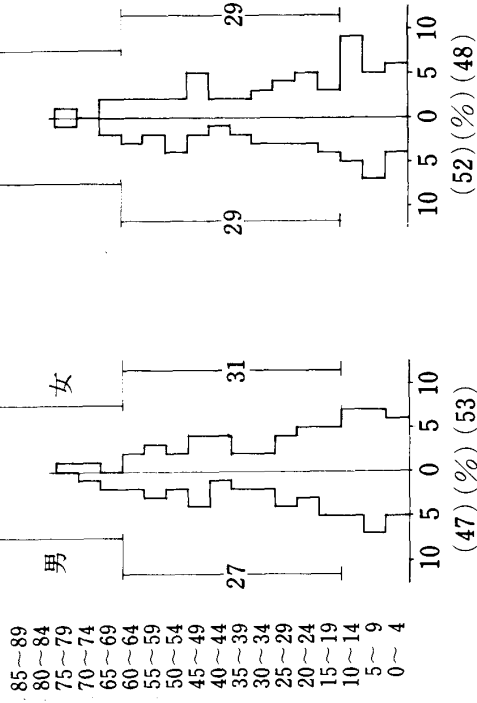




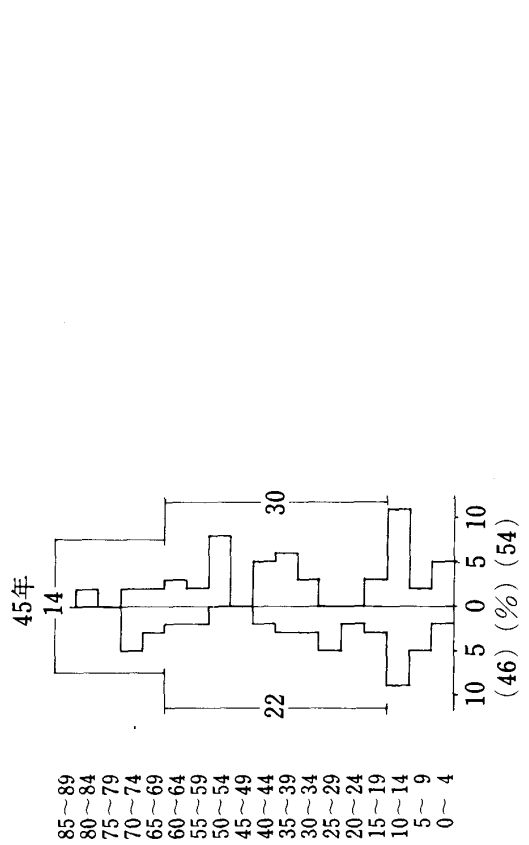
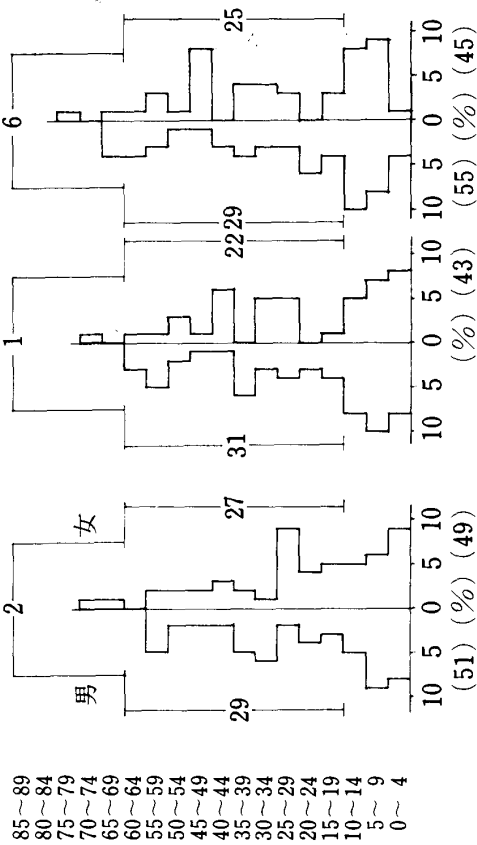
第5図 年齢階層別人口構成（シエア）

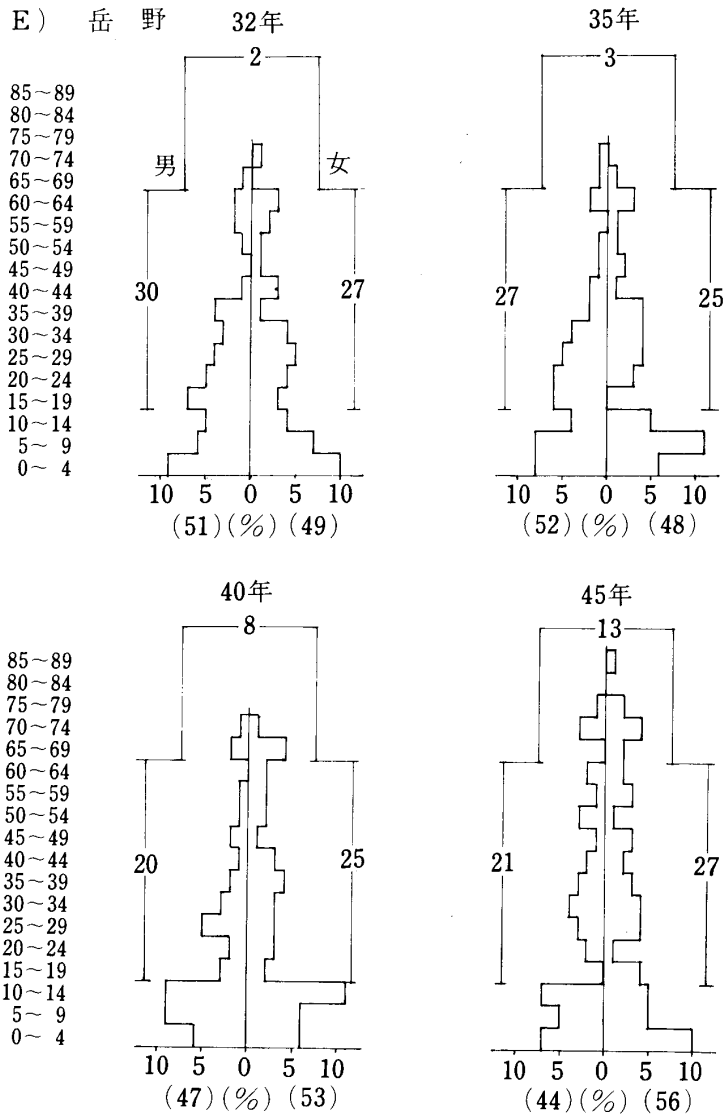


D) 大野



C) 高峠





第 15 表 シェアの比較表 (全国, 鹿児島県, 4 部落)

○ 男女のシェア

	35年		45年	
	男	女	男	女
全 国	49.1	50.9	49.1	50.9
鹿児島県	47.8	52.2	46.5	53.5
4 部落	51.0	49.0	44.0	56.0

○ 若手労働力(15~29才)のシェア

	35年	45年
全 国	27.7	27.8
鹿児島県	19.0	17.8
4 部落	22.0	13.0

○ 生産年齢人口のシェア

	35年		45年	
	男	女	男	女
全 国	31.2	32.9	33.9	35.1
鹿児島県	25.5	29.3	27.9	33.6
4 部落	29.0	27.0	23.0	30.0

○ 0~9才の人口シェア

	35年	45年
全 国	18.3	16.5
鹿児島県	24.1	15.6
4 部落	29.0	22.0

○ 高齢人口のシェア

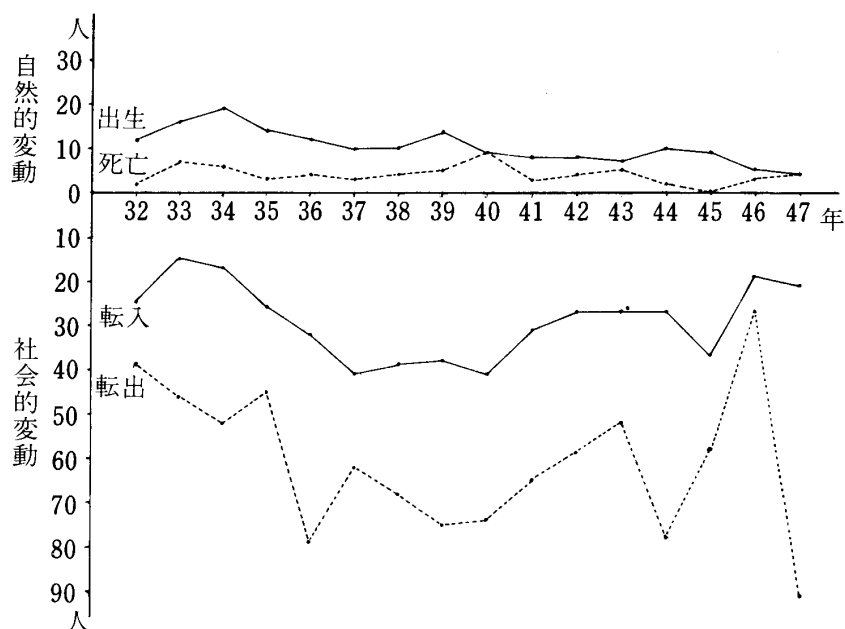
	35年	45年
全 口	5.6	6.9
鹿児島県	7.4	11.0
4 部 落	4.0	12.0

○ 主要出産年齢人口のシェア

	35年	45年
全 国	12.9	13.5
鹿児島県	10.7	8.5
4 部 落	11.0	9.0

## (4)人口変動の要因

以上、人口の推移について、世帯の変動との関係、また年令階層別の人口変動を検討してきたが、ここで変動の要因について分析してみよう。人口変動は自然的変動と社会的変動に分けられるが、第16表、第6図は4部落の人口変動の要因を示すものである。(附表第3表)



第6図 人口変動の要因

先づ、自然的変動についてみると、出生児は年々減少し、死亡者は大体横ばいの状態であるからその差は年々縮まり、47年では自然増減零となっている。部落別にみると、林内、高峠両部落では昭和40年頃から自然増減は零かあるいは負になり、いわゆる人口失格地帯<sup>5)</sup>となっている。結局人口動態を決める要因は社会増減ということになる。流入、流出ともに年によって増減があり、一概には言えないが流入は横ばいの傾向があり、流出は年々増加しているため、その差引による社会減量も大きくなっている。

社会的変動の転出、転入についてその差引をみると、第17表のとおりである。転出のうちで最も比率の大きいものは転職、再就職のための本人及び家族の転出で41%を占めている。このうち挙家離村者を除いた転出者の年令、転出先および転出先での職種については、第18表に示すとおり、男性が3分の2を占め、年令構成は20才代以下が86%と若年層の転出者が多い。転出先の地域は、昭和40年代に入って中京、京浜地区への転出者も増えているが、依然として京阪神地区が多い。また

第16表 人口変動要因 4部落計

単位：人

年	自然的変動			社会的変動			増減
	出生	死亡	差引	流入	流出	差引	
32	12	2	10	25	39	- 14	- 4
33	17	7	10	15	46	- 31	- 21
34	19	6	13	17	52	- 35	- 22
35	14	3	11	27	45	- 18	- 7
36	12	4	8	31	80	- 49	- 41
37	10	3	7	41	62	- 21	- 14
38	10	4	6	40	69	- 29	- 23
39	14	5	9	38	75	- 37	- 28
40	9	8	1	42	74	- 32	- 31
41	8	3	5	32	67	- 35	- 30
42	8	4	4	26	59	- 33	- 29
43	8	4	4	30	54	- 24	- 20
44	10	2	8	27	78	- 51	- 43
45	9	1	8	37	58	- 21	- 13
46	5	3	2	20	29	- 9	- 7
47	4	4	0	23	92	- 69	- 69
計	169	63	106	471	979	- 508	- 402

職種別には男子は建設業、金属、機械工業部門が多く、女子は繊維工業に60%が従事していて、京阪神地区産業の若年労働力の供給基地といわれている南九州地方の農山村の実態を具体的に示しているといえよう。

つぎに、転出世帯の転出理由、転出先、転出先での職業は第19表のとおりである。転出理由としては経済的理由が半数を占め、製炭業の不振、林業労働者としての日々雇用に行先の不安を感じ、安定した働き口を求めて転出している。岳野部落の17世帯はすべて経済的理由で転出しているが、転出先もほとんど大都市地域となっていて、特に大阪市の鉄線製造のW工場と東京都の再生紙の会社に集中しているのが注目される。

第20表、第21表は出稼ぎ者に関する調査表であるが、昭和30年以後半から昭和40年代前半にかけて多かった出稼ぎも47年から急に減少してきている。これは主に、いままで林内、高峠部落から出稼ぎに出ていた者が、部落から挙家離村したことに原因している。4部落合計して53名が出稼ぎ経験者で、このうち66%が世帯主、あとつぎ13%となっている。出稼ぎ期間は各年とも6か月以上9か月未満のものが多く、1年以上の長期出稼ぎもみられる。長期の場合は年に1、2回休暇をとって帰郷している。

出稼ぎ先については、転、就職の場合と同様京阪神地区が最も多く56%を占め、ついで京浜地区の26%となっている。出稼ぎ先の仕事は建設関係が多く、昭和40年代に入ってからには特に建設関係の作業に従事する者の比率が高くなっている。

中学、高校新卒者の就職による転出が16%と高率を示しているが、ほとんど中学卒業生で、その進路を示したのが第22表である。卒業生数は年平均男女共に7人ずつであるが、進学率は高校進学

第17表 社会的変動の理由(4部落計) 単位:人, %

年次	出											入										
	転						出					転						入				
	公転退職 本人	家族	転就職 本人	家族	出稼	転居	中高卒 新規就職	進学	結婚	その他	計	公転退職 本人	家族	転退職 本人	家族	出稼	転居	卒業	結婚	結婚のた め帰郷	その他	計
32	1	2	10	1			1	1	1	1	17	6	5	3								14
33		5	7	1			5	1	3		22		7	1	1				1	1		11
34	1		6	6		4	3		1		19			3								6
35	1		15	4		1	6		7	1	28	1	2	1					3	2		9
36	2	2	5	8		3	5		5		23	3	1	4					3	1		9
37	1	1	13	1		5	3		1		28	2	2	1					3	1		8
38	3	1	4	1		3	5		6		26	2	3	5					2			14
39	2	2	5	11		2	4				20	4	2	1					4			13
40	2	1	9	3		1	5		5		49	3	6	3					3	1		11
41	2	4	6	3		4	6		2		31	3	6	3					4			20
42	4	2	12	1		3	1		1		35	2		10								25
43	4	2	5	6		4	8		1		27	4	2	7					2	3		17
44	6	4	12	1		7	5		2		40	3	3	3								28
45	5	7	1	1		6	8		3		29	2	4	7								12
46	3	4	10	6		3	9		2		47	3	3	3					1			24
47	1	7	2	8		4	7		1		33	2	4	7								15
計	1	2	5	5		8	6		1		39	4	1	3					1			21
構成比	5.9	6.6	24.0	17.4		9.8	16.3		4.5	0.9	100	14.0	15.1	25.3					4.3	3.3		100



第19表 転出世帯の内訳

単位：戸，%

部落	減少世帯数	死亡による減少	転出による減少	転出の理由						転出先						転出先での職種										
				経済的理由	開拓部落解散	健康上の理由	高齢のため	結婚のため	子弟の教育上	その他	大都市地域			大都市地域外			建設業	製造業			畜産	農業	その他	不明		
											北九州	京阪神	中京	京浜	計	県外		県内	市内	地域内					地域外	食品
林内	13		13	4	1	5	1	1	1	1	1	1	1	3	2	7	1	1	1	1				2	1	
高峠	29		29	13	16						1	2	1	4	1	10	12	2	1	2			4	9	2	11
大野	17	1	16	6	4	3					2	2		2	5	7	2	3	1					1	3	
岳野	21	4	17	17							10	1	5	16	1	1		2	10			2				
計	80	5	75	40	16	1	9	4	1	4	1	15	3	25	3	15	27	5	6	14	1	6	4	9	5	15
構成比	100	6.2	93.8	50.0	20.0	1.3	11.2	5.0	1.3	5.0	1.3	20.0	4.0	33.3	4.0	20.0	36.0	6.7								

注：上記の転出世帯には公務員世帯（高隈演習林職員，大野小・中学校職員）は含まれない。

第20表 出稼者 者 調 (I)

単位：人、%

年次	出稼者				年 令 階 層						世帯上の地位		出稼ぎ経験回数				出稼ぎ期間										
	林内	高峠	大野	岳野	計	指数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	世帯主	あつぎ	その他	初め	2回	3~4回	5~7回	8~10回	11回	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上9か月未満	9か月以上12か月未満	1年以上2年未満	
昭36		6		2	8	6.7		4	4				7		1	8						1	3	1	3		
37	1	3		9	13	10.9		5	2	4	1	1	8	4	1	12	1					1	2	6	2		2
38		3		10	13	10.9	1	7	2	3			7	2	4	6	6	1				1	4	4	3		1
39		2	1	6	9	7.6		4	3	1	1		5		4	6	2	1					1	2	2		4
40	1	2	1	7	11	9.2		3	3	2	2	1	11			6	3	1	1				4	2	5		
41	3	3	2	2	10	8.4		1	4	1	4		9	1		4	4	1	1			1	2	3	3		1
42	3	3	1	2	9	7.6		1	4	1	3		8		1	3	2	2	2				4	4	3		2
43		4	2	2	8	6.7			4	2	1	1	8			2	2	2	1	1			1	3	2		2
44	3	6	5	2	16	13.4	1	1	4	6	1	3	13	1	2	4	7	2	2	1			4	7			5
45		4	3	5	12	10.1		2	7	1	1	1	8		4	2	3	5				1	1	6	3		1
46	1	3	1	3	8	6.7		1	1	1	4	1	6	2		3		3	1			1	1	2	3		2
47				2	2	1.7		2					1	1			2										
計	4	10	8	31	53								35	7	11	23	13	12	3	1	1						
構成比	7.5	18.9	15.1	58.5	100	100							66.0	13.2	20.8	43.4	24.5	22.6	5.7	1.9	1.9						



第21表 出稼者調 (II)

単位：人，%

年次	出稼先							出稼先の産業							
	大都市地域				大都市以外			計	建設業	食料品	製造業				計
	北九州	京阪神	中京	京浜	計	県外	県内				金属機械	繊維	その他	計	
昭36		6			6	2		8	3	1	4			5	8
37		10			10	2	1	13	7	1	5			6	13
38		9		3	12		1	13	8	1	3	1		5	13
39	1	7		1	9			9	4		5			5	9
40		1		9	10	1		11	11						11
41		2		5	7	1	2	10	10						10
42		4		4	8	1		9	8				1	1	9
43		5		1	6	2		8	7		1			1	8
44		9	2	4	15	1		16	15		1			1	16
45		7	2	2	11	1		12	10		1		1	2	12
46		5		2	7	1		8	7		1			1	8
47		2			2			2	2						2
計	1	67	4	31	103	12	4	119	92	3	21	1	2	27	119
構成比	0.8	56.3	3.4	26.1	86.6	10.0	3.4	100.0	77.3	2.5	17.5	0.8	1.7	22.7	100.0

率男子9.8%，女子3.2%と極端に低い。しかしながら，就職先で定時制高校に進学する者が多く，定時制高校へ進学できることが，就職の一つの魅力となっているので，必ずしも進学率が極端に低いと速断はできない。技術者養成所へ入る者を除いて，残り90%が就職している。就職者のうち22%が農林業，家事手伝いで部落に残っているが，彼等も5年以内にはほとんど都会へ転出し，農林業以外に従事している。

公務員の転退職者とその家族の転出が13%を占めているが，これは小，中学校職員，高隈演習林職員とその家族の転出である。

転入については，転職，退職者とその家族の転入が35%で最も多く，公務員の転勤と家族の転入が30%でこれについている。

つぎに，転出，転入者の転出先，転入前の居住地を総括的にみると，転出先では県外が56%と最も多く，市内と県内はほぼ同じである。県外転出先は男女とも京阪神地区が最も多く，ついで京浜方面で，中京地区への転出者は少ない。（第23表，附表第4表）

転入前の居住地については，これも転出と同じく県外が最も多く，ついで県内となっている。県外では転出の場合と同様京阪神地区が最も多くなっている。

第22表 中学新卒者の進路

単位：人

卒業年	就 職															進 学						合 計					
	県 内										県 外					高 校		そ の 他									
	市 内					県 内					計	計	計	計	計	計											
	農家 林事 業手 及伝	工 員	店 員	そ の 他	工 員	工務店(含木工)	看護婦見習	美容師見習	店 員	そ の 他							工 員	工務店(含木工)	紡績	看護婦見習	店 員		交通関係	そ の 他	垂水 高校	鹿屋 高校	鹿児島市内
32	男1 女5			1								1	5				2	1						1	2	12	
33	13 3		1						1			5		1			15									15	10
34	4 2									1		4					4				1			1	5	7	
35	2									3		4					5	1	1					2	7	5	
36	2 1									3		4	1				5				1			1	6	6	
37	2									3		5		1			5								5	6	
38	3 1					1				1	1	5					5				1			1	6	9	
39	3 1							1		4		3	1				8		1	1				2	10	9	
40	3									4		4		1	1		7	1						1	8	9	
41		1				2				1	3	7			1		7		1			1	1	1	8	9	
42										1	2	4	1	1			3	1	1	1		1	1	4	7	7	
43										4	1	9	1		2		6		1		1		2	2	8	12	
44	1					2				2	1	7					6		1		1		1	2	8	8	
45						1				1	2	7					4								4	7	
46						2				1		2			1		4	1						1	5	3	
47										2	4	5					6	1	1					2	8	6	
計	34 13	1 0	0 1	0 1	0 0	7 0	0 1	0 0	1 0	0 1	31 12	14 0	2 80	0 4	2 3	0 4	1 0	92 120	3 1	3 2	5 1	3 0	3 0	3 1	20 5	112 125	

第23表 転出，転入先内訳表 4部落計

単位：人，%

年		転 出					転 入					差引
		市内	県内	県外	国外	計	市内	県内	県外	国外	計	
32	男	3	3	11		17	2	10	2		14	- 3
	女	8	1	13		22	2	6	3		11	- 11
33	男	3	6	10		19		4	2		6	- 13
	女	10	4	13		27	2	5	2		9	- 18
34	男	2	12	9	1	24		4	5		9	- 15
	女	4	12	12		28	2	4	2		8	- 20
35	男	4	6	15		25	4	7	2		13	- 12
	女	6	3	11		20	2	4	7		13	- 7
36	男	1	12	35		48	2	8	1		11	- 37
	女	4	5	22		31	9	6	6		21	- 10
37	男	7	3	23		33		3	21		24	- 9
	女	6	7	15		28	3		14		17	- 11
38	男	7	7	24	1	39	1	9	17		27	- 12
	女	10	7	13		30	2	5	6		13	- 17
39	男	5	18	22		45	4	5	14		23	- 22
	女	6	7	17		30	6	4	5		15	- 15
40	男	3	8	31		42		5	21	1	27	- 15
	女	7	6	19		32		6	9		15	- 17
41	男	8	12	18		38	3	8	8		19	- 19
	女	9	7	12		28	1	2	9		12	- 16
42	男	1	11	23		35		6	8		14	- 21
	女	3	5	16		24	1	7	5		13	- 11
43	男	2	6	18		26	2	3	11		16	- 10
	女	3	7	18		28	2	6	6		14	- 14
44	男	8	5	33		46	1	4	12		17	- 29
	女	6	5	21		32		3	7		10	- 22
45	男	6	5	18		29		8	14		22	- 7
	女	3	4	22		29	1	7	7		15	- 14
46	男	5	3	8		16		3	12		15	- 1
	女	7	2	4		13		1	4		5	- 8
47	男	26	8	10		44	3	3	7		13	- 31
	女	30	8	9		47	5	3	1		9	- 38
計	男	91	125	308	2	526	22	90	157	1	270	- 256
	女	122	90	237	0	449	38	69	93	0	200	- 249
	計	213	215	545	2	975	60	159	250	1	470	- 505
構成比%		21.8	22.1	55.9	0.2	100	12.6	34.0	53.2	0.2	100	

#### IV おわりに

以上、高隈演習林の地元4部落の人口の移動についてみてきたが、これら4部落は垂水市の他の山間部落に較べても人口、世帯数の減少が激しく、林内部落は崩壊、高峠開拓部落は過疎対策による畜産企業の進出という特殊な事情があったが消滅し、残るのは大野、岳野の2部落となった。4部落は隣接していたが、その成立を異にし、部落構造にも違うところがあるので、人口流出現象の数量、内容あるいは型は一律でない。同じ山間集落といってもこのような相異があるので、集落調査が必要である。

集落の構能を維持して行くための限界戸数は、10～15戸といわれているが、一度この限界まで減少してしまうと、それから挙家離村の戸数が急に増えはじめ、部落の崩壊を早める。その例が林内部落である。

一般に世帯の減少は人口の減少ほど激しくはないが、若年層の流出で老令人口が相対的に増え、しかも小人数の老人世帯が増えているので、後継者問題とも関連して今後の部落構成に大きく影響してくるものと思われる。

これらの部落は演習林事業に必要な労働力供給の主要基地であるから、今後の林業労働力確保並びに演習林経営の立場からも、労働力対策と山村人口問題の解明は急がねばならない。

#### 文 献

- 1) 大川健嗣：出稼ぎの経済学，1974.
- 2) 渡辺兵力：山村人口の流動の本質と分析，1967.
- 3) 館 稔：人口問題の知識，1969.
- 4) 自治省〈過疎対策管理室編〉：過疎地域の現状と対策，1972.
- 5) 渡辺兵力：山村の人と社会の動き，森林組合 No. 3，1968.



## C) 大 野

単位：戸，%

世帯員数	32年	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
人																	
1	8	9	8	10	8	10	8	6	8	10	10	14	14	17	13	11	8
2	8	11	12	14	13	12	11	15	16	16	13	9	9	9	14	12	15
3	14	13	12	7	8	9	11	11	9	9	8	11	12	7	5	5	4
4	6	8	10	12	9	6	8	3	4	6	8	5	4	3	5	5	7
5	6	7	5	6	7	8	6	7	8	4	6	7	9	9	8	7	4
6	8	4	5	6	5	9	10	12	8	6	4	5	2	5	1	4	7
7	5	6	6	4	6	3	1		1	3	4	3	3	1	4	3	3
8	4	3	2	3	3	2	2	3	3	2	1	1	1	1	1	1	
9	1	2	2	1		2	2										
10				1	1												
11	1	1	1														
計	61	64	63	64	60	61	59	57	57	56	54	55	54	52	51	48	48
人 員	255	256	250	244	235	234	226	212	202	186	182	179	170	158	158	158	161
1戸当 平均員数	4.2	4.0	4.0	3.8	3.9	3.8	3.8	3.7	3.5	3.3	3.4	3.3	3.2	3.0	3.1	1.3	3.3
32年対比	100	105	103	105	98	100	97	93	93	92	86	90	86	85	84	379	79

## D) 岳 野

単位：戸，%

世帯員数	32年	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
1	2	2	1	2	2	2	3	2	3	4	5	5	4	5	3	4	5
2	4	4	5	2	3	9	7	8	5	6	7	7	10	10	12	10	10
3	4	5	8	8	9	8	7	7	10	2	3	7	5	5	6	6	5
4	13	13	11	15	13	8	12	13	10	12	11	6	4	5	5	5	5
5	16	14	12	9	8	12	11	8	14	12	13	12	11	5	4	4	3
6	3	3	7	8	10	8	7	9	8	12	6	4	6	6	4	5	3
7	6	8	6	5	5	5	5	3	2	2	3	4	2	4	2	3	5
8	3	2	2	3	3	3	1	3	1				1		2	1	
9							1										
10																	
11																	
計	51	51	52	52	53	55	54	53	53	50	48	45	43	40	38	38	36
人 員	238	237	239	242	246	243	235	230	223	216	194	176	168	149	139	141	128
1戸当 平均人員	4.7	4.7	4.6	4.7	4.6	4.4	4.3	4.3	4.2	4.3	4.0	3.9	3.9	3.8	3.7	3.7	3.5
32年対比	100	100	102	102	104	108	106	104	104	100	94	88	86	78	74	74	71

附第2表 年令階層別人口構成

単位：人、%

年	年齢階	林内			高峠			大野			岳野			計			35年 対比
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
32	0～14 <sup>才</sup>	22	16	38	28	25	53	45	50	95	48	49	97	143	140	283	107
	15～64	23	29	52	37	35	72	67	79	146	70	66	136	197	209	406	108
	65～	2	1	3	0	2	2	8	6	14	3	2	5	13	11	24	77
	計	47	46	93	65	62	127	120	135	255	121	117	238	353	360	713	106
33	0～14	24	14	38	27	27	54	42	47	89	48	50	98	141	138	279	105
	15～64	23	32	55	37	28	65	69	81	150	69	62	131	198	203	401	106
	65～	1	1	2	0	2	2	10	7	17	5	3	8	16	13	29	94
	計	48	47	95	64	57	121	121	135	256	122	115	237	355	354	709	105
34	0～14	22	14	36	27	24	51	38	45	83	47	49	96	134	132	266	100
	15～64	22	28	50	35	25	60	70	78	148	72	62	134	199	193	392	104
	65～	1	1	2	0	1	1	9	10	19	5	4	9	15	16	31	100
	計	45	43	88	62	50	112	117	133	250	124	115	239	348	341	689	102
35	0～14	20	12	32	26	20	46	38	48	86	49	52	101	133	132	265	100
	15～64	23	27	50	32	23	55	67	73	140	73	59	132	195	182	377	100
	65～	1	2	3	0	1	1	9	9	18	4	5	9	14	17	31	100
	計	44	41	85	58	44	102	114	130	244	126	116	242	342	331	673	100
36	0～14	18	10	28	27	19	46	36	49	85	51	53	104	132	131	263	99
	15～64	19	22	41	34	25	59	60	70	130	71	58	129	184	175	359	95
	65～	0	3	3	0	1	1	10	10	20	6	7	13	16	21	37	119
	計	37	35	72	61	45	106	106	129	235	128	118	246	332	327	659	98
37	0～14	13	9	22	23	17	40	39	53	92	54	52	106	129	131	260	98
	15～64	16	20	36	19	20	39	55	67	122	63	57	120	153	164	317	84
	65～	0	3	3	0	1	1	11	9	20	7	10	17	18	23	41	132
	計	29	32	61	42	38	80	105	129	234	124	119	243	300	318	618	92
38	0～14	14	8	22	21	15	36	36	45	81	53	55	108	124	123	247	93
	15～64	15	19	34	24	21	45	59	66	125	53	54	107	148	160	308	82
	65～	0	5	5	1	1	2	9	11	20	8	12	20	21	29	50	161
	計	29	32	61	46	37	83	104	122	226	114	121	235	293	312	605	90
39	0～14	12	7	19	18	15	33	34	42	76	51	53	104	115	117	232	88
	15～64	16	16	32	27	20	47	61	64	125	50	55	105	154	155	309	82
	65～	0	5	5	2	2	4	5	6	11	8	13	21	15	26	41	132
	計	28	28	56	47	37	84	100	112	212	109	121	230	284	298	582	86
40	0～14	10	9	19	17	14	31	32	36	68	51	53	104	110	112	222	84
	15～64	12	13	25	24	20	44	51	62	113	45	54	99	132	149	281	75
	65～	0	4	4	3	2	5	11	10	21	7	13	20	21	29	50	161
	計	22	26	48	44	36	80	94	108	202	103	120	223	263	290	553	82

年	年齢階	林 内			高 峠			大 野			岳 野			計			35年 対比
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
41	0~14	9	7	16	16	14	30	22	30	52	52	51	103	99	102	201	76
	15~64	9	15	24	21	20	41	63	60	123	43	59	102	136	154	290	77
	65~	1	4	5	3	2	5	6	5	11	4	7	11	14	18	32	103
	計	19	26	45	40	36	76	91	95	186	99	117	216	249	274	523	78
42	0~14	9	7	16	13	13	26	24	32	56	42	47	89	88	99	187	71
	15~64	7	13	20	24	16	40	50	56	106	41	51	92	122	136	258	68
	65~	1	4	5	3	3	6	12	8	20	5	8	13	21	23	44	142
	計	17	24	41	40	32	72	86	96	182	88	106	194	231	258	489	73
43	0~14	8	6	14	12	11	23	24	31	55	39	40	79	83	88	171	65
	15~64	9	13	22	19	23	42	53	59	112	33	45	78	114	140	254	67
	65~	0	4	4	1	1	2	8	4	12	6	13	19	15	22	37	119
	計	17	23	40	32	35	67	85	94	179	78	98	176	212	250	462	69
44	0~14	6	5	11	12	12	24	24	27	51	33	37	70	75	81	156	59
	15~64	9	15	24	14	19	33	45	55	100	37	42	79	105	131	236	63
	65~	2	4	6	4	3	7	11	8	19	6	13	19	23	28	51	165
	計	17	24	41	30	34	64	80	90	170	76	92	168	203	240	443	66
45	0~14	5	4	9	10	11	21	21	27	48	30	30	60	66	72	138	52
	15~64	6	11	17	13	19	32	40	51	91	31	41	72	90	122	212	56
	65~	0	4	4	5	3	8	10	9	19	5	12	17	20	28	48	155
	計	11	19	30	28	33	61	71	87	158	66	83	149	176	222	398	59
46	0~14	5	4	9	10	12	22	18	27	45	32	25	57	65	68	133	50
	15~64	8	10	18	11	17	28	40	51	91	27	37	64	86	115	201	53
	65~	0	4	4	5	3	8	11	11	22	6	12	18	22	30	52	168
	計	13	18	31	26	32	58	69	89	158	65	74	139	173	213	386	57
47	0~14	3	2	5	7	10	17	17	25	42	31	25	56	58	62	120	45
	15~64	5	7	12	16	17	33	45	49	94	29	41	70	95	114	209	55
	65~	1	4	5	5	4	9	11	11	22	4	11	15	21	30	51	165
	計	9	13	22	28	31	59	73	85	158	64	77	141	174	206	380	56
48	0~14	3	2	5				20	26	46	31	23	54	54	51	105	40
	15~64	4	6	10				42	49	91	26	32	58	72	87	159	42
	65~	1	4	5				13	11	24	4	12	16	18	27	45	145
	計	8	12	20				75	86	161	61	67	128	144	165	309	46



附 第 3 表 人 口 変 動 内 訳

A) 林 内

単位:人

年	自然的変動			社会的変動			増減
	出生	死亡	差引	流入	流出	差引	
32	1	1	0	9	7	2	2
33	4	0	4	0	11	-11	-7
34	0	1	-1	9	11	-2	-3
35	1	1	0	2	15	-13	-13
36	0	0	0	3	14	-11	-11
37	1	1	0	6	6	0	0
38	3	0	3	3	11	-8	-5
39	2	0	2	6	16	-10	-8
40	0	0	0	2	5	-3	-3
41	0	0	0	4	8	-4	-4
42	1	0	1	6	8	-2	-1
43	0	0	0	6	5	1	1
44	0	1	-1	2	12	-10	-11
45	1	0	1	3	3	0	1
46	0	0	0	2	11	-9	-9
47	0	0	0	1	3	-2	-2
計	14	5	9	64	146	-82	-73

B) 高 峠

単位:人

年	自然的変動			社会的変動			増減
	出生	死亡	差引	流入	流出	差引	
32	4	0	4	0	10	-10	-6
33	3	3	0	5	14	-9	-9
34	5	0	5	1	16	-15	-10
35	2	0	2	7	5	2	4
36	2	1	1	2	29	-27	-26
37	0	0	0	12	9	3	3
38	0	0	0	6	5	1	1
39	0	0	0	4	8	-4	-4
40	0	2	-2	4	6	-2	-4
41	0	1	-1	2	5	-3	-4
42	0	0	0	4	9	-5	-5
43	2	0	2	3	8	-5	-3
44	2	0	2	6	11	-5	-3
45	1	0	1	2	6	-4	-3
46	0	0	0	3	2	1	1
47	0	0	0	5	64	-59	-59
計	21	7	14	66	207	-141	-127

C) 大 野

単位:人

年	自然的変動			社会的変動			増減
	出生	死亡	差引	流入	流出	差引	
32	3	0	3	13	15	-2	1
33	6	4	2	8	16	-8	-6
34	5	3	2	4	18	-14	-12
35	4	2	2	14	19	-5	-3
36	4	2	2	18	21	-3	-1
37	1	2	-1	15	22	-7	-8
38	3	3	0	10	24	-14	-14
39	7	3	4	12	27	-15	-11
40	2	5	-3	17	31	-14	-17
41	2	1	1	20	22	-2	-1
42	3	2	1	16	21	-5	-4
43	1	3	-2	7	14	-7	-9
44	3	0	3	12	27	-15	-12
45	2	0	2	19	21	-2	0
46	2	0	2	6	8	-2	0
47	3	2	1	13	11	-2	3
計	51	32	19	204	317	-113	-94

D) 岳 野

単位:人

年	自然的変動			社会的変動			増減
	出生	死亡	差引	流入	流出	差引	
32	4	1	3	3	7	-4	-1
33	4	0	4	2	5	-3	1
34	9	2	7	3	7	-4	3
35	7	0	7	4	6	-2	5
36	6	1	5	8	16	-8	-3
37	8	0	8	8	25	-17	-9
38	4	1	3	21	29	-8	-5
39	5	2	3	16	24	-8	-5
40	7	1	6	19	32	-13	-7
41	6	1	5	6	32	-26	-21
42	4	2	2	0	21	-21	-19
43	5	1	4	14	27	-13	-9
44	5	1	4	7	28	-21	-17
45	5	1	4	13	28	-15	-11
46	3	3	0	9	8	1	1
47	1	2	-1	4	14	-10	-11
計	83	19	64	137	309	-172	-108

附 第 4 表 転出, 転入先内訳表

A) 林 内

単位: 人, %

年		転 出					転 入					差引
		市内	県内	県外	国外	計	市内	県内	県外	国外	計	
32	男			4		4		4	1		5	1
	女	2		1		3		3	1		4	1
33	男			6		6					0	- 6
	女	1		4		5					0	- 5
34	男	2	2	2		6		3	3		6	
	女	1	2	2		5		2	1		3	- 2
35	男		3	5		8					0	- 8
	女	4		3		7		1			1	- 6
36	男		3	5		8		1			1	- 7
	女		2	3		5			2		2	- 3
37	男	3				3			2		2	- 1
	女	1	1	1		3	1		3		4	1
38	男	4		1		5	1	1			2	- 3
	女	5		1		6		1			1	- 5
39	男	4	2	3		9	3				3	- 6
	女	4	1	2		7	3				3	- 4
40	男			4		4			1		1	- 3
	女			1		1			1		1	0
41	男	1	1	3		5		1	2		3	- 2
	女			3		3			1		1	- 2
42	男			4		4		1	3		4	0
	女			4		4			2		2	- 2
43	男	1	1	2		4	1		3		4	0
	女			1		1	1		1		2	1
44	男	4		3		7		1			1	- 6
	女	2		3		5			1		1	- 4
45	男					0			2		2	2
	女	1		2		3		1			1	- 2
46	男	3		3		6			2		2	- 4
	女	4		1		5					0	- 5
47	男	1		1		2			1		1	- 1
	女	1				1					0	- 1
計	男	23	12	46		81	5	12	20		37	-44
	女	26	6	32		64	5	8	13		26	-38
	計	49	18	78		145	10	20	33		63	-82
構成比%		33.8	12.4	53.8		100	15.9	31.7	52.4		100	

## B) 高 峠

単位：人、%

年		転 出					転 入					差引
		市内	県内	県外	国外	計	市内	県内	県外	国外	計	
32	男			3		3					0	-3
	女	1		6		7					0	-7
33	男		5	2		7		4			4	-3
	女	2	3	2		7		1			1	-6
34	男		7	1		8					0	-8
	女		7	1		8		1			1	-7
35	男		2	1		3		3	1		4	1
	女		1	1		2		1	2		3	1
36	男		3	17		20					0	-20
	女			9		9	1	1			2	-7
37	男		1	3		4		1	8		9	5
	女			4		4	1		2		3	-1
38	男		1	2		3		1	3		4	1
	女			2		2			2		2	0
39	男		2	5		7			4		4	-3
	女			1		1					0	-1
40	男			4		4			2		2	-2
	女	1		1		2			2		2	0
41	男			2		2			2		2	0
	女	2		2		3					0	-3
42	男		6	3		9			1		1	-8
	女					0		2	1		3	3
43	男			4		4			2		2	-2
	女		1	3		4		1			1	-3
44	男			9		9			6		6	-3
	女			2		2					0	-2
45	男			4		4			2		2	-2
	女			2		2					0	-2
46	男			1		1			3		3	2
	女			1		1					0	-1
47	男	24	5	3		32			4		4	-28
	女	26	4	2		32			1		1	-31
計	男	24	32	64		120	0	9	38		47	-73
	女	32	16	38		86	2	7	10		19	-67
	計	56	48	102		206	2	16	48		66	-140
構成比%		27.2	23.3	49.5		100	3.0	24.2	72.8		100	

## C) 大 野

単位：人、%

年		転 出					転 入					差引
		市内	県内	県外	国外	計	市内	県内	県外	国外	計	
32	男	3	1	3		7	2	5			7	0
	女	5		3		8	1	3	2		6	-2
33	男	3		2		5			2		2	-3
	女	7	1	3		11		4	2		6	-5
34	男		2	5	1	8		1			1	-7
	女	3	2	5		10	1	1	1		3	-7
35	男	4	1	5		10	4	2	1		7	-3
	女	2	1	6		9	2	1	4		7	-2
36	男	1	3	5		9	2	3	1		6	-3
	女	2	1	9		12	6	4	3		13	1
37	男	4		3		7		2	6		8	1
	女	5	5	5		15	1		6		7	-8
38	男		4	5	1	10		6			6	-4
	女	3	5	6		14	1	3			4	-10
39	男	1	13	1		15	1	3	2		6	-9
	女	1	5	6		12	3	2	1		6	-6
40	男	2	8	3		13		5	3	1	9	-4
	女	6	6	6		18		6	2		8	-10
41	男	1	10	3		14	3	5	2		10	-4
	女	2	5	1		8	1	2	7		10	2
42	男	1	3	6		10		5	4		9	-1
	女	3	4	4		11	1	5	2		8	-3
43	男	1	1	3		5	1	1	1		3	-2
	女	3	2	4		9	1	2	1		4	-5
44	男	4	3	11		18	1	3	3		7	-11
	女	3	3	3		9		3	2		5	-4
45	男	5	4	5		14		5	6		11	-3
	女	2	4	1		7	1	5	2		8	1
46	男	1	1	1		3		1	4		5	2
	女	2	2	1		5		1			1	-4
47	男	1	3	1		5	3	3			6	1
	女	1	3	1		5	5	2			7	2
計	男	32	57	62	2	153	17	50	35	1	103	-50
	女	50	49	64	0	163	24	44	35	0	103	-60
	計	82	106	126	2	316	41	94	70	1	206	-110
構成比%		25.7	33.7	40.0	0.6	100	19.9	45.6	34.0	0.5	100	

## D) 岳野

単位：人、%

年		転出				計	転入				計	差引
		市内	県内	県外	国外		市内	県内	県外	国外		
32	男		2	1		3		1	1		2	-1
	女		1	3		4	1				1	-3
33	男		1			1					0	-1
	女			4		4	1	1			2	-2
34	男		1	1		2			2		2	0
	女		1	4		5	1				1	-4
35	男			4		4		2			2	-2
	女		1	1		2		1	1		2	0
36	男		3	8		11		4			4	-7
	女	2	2	1		5	2	1	1		4	-1
37	男		2	17		19			5		5	-14
	女		1	5		6			3		3	-3
38	男	3	2	16		21		1	14		15	-6
	女	2	2	4		8	1	1	4		6	-2
39	男		1	13		14		2	8		10	-4
	女	1	1	8		10		2	4		6	-4
40	男	1		20		21			15		15	-6
	女			11		11			4		4	-7
41	男	6	1	10		17		2	2		4	-13
	女	5	2	7		14			1		1	-13
42	男		2	10		12					0	-12
	女		1	8		9					0	-9
43	男		4	9		13		2	5		7	-6
	女		4	10		14		3	4		7	-7
44	男		2	10		12			3		3	-9
	女	1	2	13		16			4		4	-12
45	男	1	1	9		11		3	4		7	-4
	女			17		17		1	5		6	-11
46	男	1	2	3		6		2	3		5	-1
	女	1		1		2			4		4	2
47	男			5		5			2		2	-3
	女	2	1	6		9		1			1	-8
計	男	12	24	136		172	0	19	64		83	-89
	女	14	19	103		136	6	11	35		52	-84
	計	26	43	239		308	6	30	99		135	-173
構成比 %		8.4	14.6	77.6		100	5.2	21.5	73.3		100	